

新型コロナウイルス感染症により大学も大きな影響を受けている。前期の授業は全てオンラインで行われた。また、後期も講義はオンラインで行われる予定である。

2月の修士論文審査会や理工入試は無事に終了したが、2月21日に春休みの注意として新型コロナウイルス対策に関して大学から注意喚起が行われた。さらに、2月23日にイベントに関する注意事項が総長から発出された。建築学科・建築学専攻では2月29日に大隈講堂で卒業計画、修士計画、修士論文公開講演会を予定しており、非常に悩んだ末に参加は発表者と教員のみが無観客講演会として行った。非常に急であったが動画中継も行った。

その後、総長から卒業式の中止が発表された。4月に入り、5月6日までの全てのキャンパスへの立入が禁止されるとともに、授業開始は5月11日からとして全てをオンラインで行うことが公表された。ほとんどの教員はオンライン授業を本格的に行った経験はなく、急遽準備することになった。授業はリアルタイムで行いそれを録画して後からでも見ることができるようになるか、予め録画しておいてオンデマンドで授業を行うことになっている。通常対面で行っているガイダンスが4月上旬にできなかったため、一部の学生からは不満も生じた。4月中旬にはWebガイダンスもできるようになったが、特に1年

生に関しては入学後1度も大学に来る機会がなく、早稲田の楽しみを味わって貰えないのは残念である。地方の実家からオンラインで授業参加している学生もいる。一方、講義科目は何度も見直せること、PPTなどの資料が見やすいことから比較的好評なのは予想外であった。しかしながら、実験、演習、製図科目は非常に困難を強いられることになった。教材は郵送で送ることにしたが、それすら当初は前例がなく壁に当たった。T定規を作ってみようという課題から始めるなど、例年と異なる工夫も行われている。講演会もデジタルで行われている。良い点も見つかったのでアフターコロナでも全く元の授業に戻ることはないだろうと思っている。

現在は、卒業生、大学院生は必要であれば限定的に研究室には入ることができるようになったが、ゼミや研究会のような活動には大きな制限がある。通学や通勤がなくなったことで、時間が効率的に使用できるといふ指摘もあるが、濃密なディスカッションなどは対面でなければやはり難しい。実験、演習、製図などは後期前半(秋学期)に感染防止対策を行って対面で行うことも計画されている。早稲田の授業以外の学生生活の伝統的な良さが消えてしまっていることが残念である。高田馬場、早稲田界隈の飲食店も非常に大きな影響を受けており、学生時代から通った店が閉店していくのは何とも寂しい。

早稲田建築

NEWS No.110 OCTOBER 2020

- 1 (巻頭言) 新型コロナウイルス感染症の影響 田辺新一
- 2 (稲門の風 十三) 第二十三回稲門建築会 特別功労賞発表
- 3 (報告) 二〇二〇年度春の大会・通常総会／新任教員の紹介 (特別企画案内) 十一月八日、web 討論会開催
- 3-5 (特集) コロナと教育 建築学科研究室
- 6-7 二〇二〇年度職域幹事一覧／二〇一九年度決算報告／二〇一九年度会費&維持費納入者
- 8 二〇二〇年度稲門建築会役員一覧／主な会務報告／計報ほか



選考理由(抜粋)

特別功労賞(業績)

遠藤勝勸(えんどう・しょうかん/友S29)
遠藤勝勸建築設計室

1955年に菊竹清訓建築設計事務所に入所以来、40年間にわたり主要プロジェクトの実務に関わる。退所後も設計活動を続け、設計監理技術指導、海外建築家の日本でのプロジェクトサポートなど多彩な活動を行う。また、菊竹事務所入所直後から国内外の建築の実測を丹念に行った実測スケッチやその著作、後輩への指導などでアナログの大切さを今日に伝える。

特別功労賞(奨励)

平瀬有人(ひらせ・ゆうじん/苗H11・院H13・博H16)
佐賀大学准教授、yHa architects

日本建築学会建築九州賞(作品賞) JIA特別賞、SDレベニュー2019入選・朝倉賞、日本建築学会作品選集2017新人賞ほか多数の賞を受賞し、また数々のプロポーザルに当選するなど、将来の活躍に期待が集まっている。学生教育について国内外での交流を積極的に行うほか社会貢献にも尽力している。

特別功労賞(奨励)

早野洋介(はやの・ようすけ/芽H13)
MAD Architects 共同主宰

国際的建築事務所のMAD Architectsを共同主宰し、東洋的自然観に基づく造形を通じて、新しい都市と建築の在り方を挑戦的に提案し、建築から都市スケールまで様々なプロジェクトを世界各国で実践している。グローバルなフィールドでの活躍は、日本の若い建築家、技術者の持つべきビジョンと進むべき方向への一つの道標を担う。

報告

二〇二〇年度春の大会・通常総会

2020年度稲門建築会通常総会は、5月22日(金)から26日(火)の間に、会員が稲門建築会のホームページから総会資料をダウンロードし、その内容について賛否や意見をメールで事務局に連絡する形で開催されました。出席者は大内議長を含め87名で定足数に達し、68名の会員から賛否や意見の連絡がありました。その結果、2019年度活動報告、2019年度収支決算報告、2020年度役員選任、2020年度活動基本方針のいずれについても、68名の賛成で可決されました。2020年度収支予算については、67名の賛成で可決されましたが、建築学会大会時の支部活性化支援金の予算立について更なる議論が必要との意見も寄せられました。また、このような時に活用して稲門建築会としての活動をより活性化させて欲しいといった貴重な意見が多数寄せられ、各委員会の今年度の活動に反映されることになりました。なお、春の大会当日に予定されていた、建築家・内藤廣先生と群

馬県建設業協会会長・青柳剛先生の二人をお招きしての対談形式による特別講演は、来年度改めて実施される予定となっております。

川口晋(総務委員長/苗S63・院H02)

新任教員の紹介

山田宮土理 准教授

やまだ・みどり



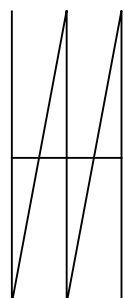
1985年生まれ/2010年早稲田大学大学院修士課程修了/2014年博士課程修了(興石直幸研究室)・博士号取得/2014~2016年早稲田大学建築学科助手/2016~2019年近畿大学建築学部助教/2019~2020年近畿大学建築学部講師

2020年4月より建築学科に着任いたしました。伝統土壁構法に関する研究で博士学位を取得しており、土壁や左官材料を専門としています。地域色豊かな土着的建築構法や、高度な職人技術による技巧的・装飾的な仕上げといった「手仕事」をいかに後世に継承していけるか、また素材の新しいかたちでの活用法開発に挑戦していきます。よろしくお願いたします。

特別企画案内

11月8日

Web 討論会開催



コロナ後の建築界に新たな戦略を考えるシンポジウム

今年にはコロナ禍のため毎年恒例の合同クラス会も実施されなくなりました。新型コロナウイルスが驚くほどの勢いで世界に広がった結果、未曾有の変革がおこりそうな情勢の中、今年はこのコロナを題材に稲門建築会としてWebによる討論会を実施します。大学と建築業界各方面の早稲田大学出身の重鎮を集め、コロナとアフターコロナについて議論するものです。

日時 2020年11月8日(日) 12:00~14:00 Webでの参加をお願いします。

主催 稲門建築会事業委員会
登壇候補者

北原義一(政経S55) 三井不動産

亀井忠夫(苗S52) 日建設計

野原文男(苗S54) 日建総研

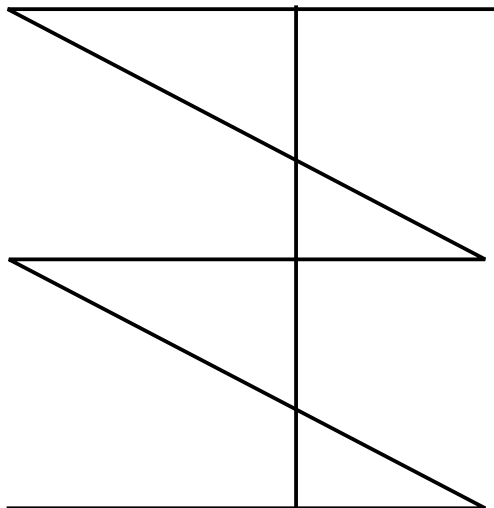
古谷誠章(苗S53) 早稲田大学

後藤彦彦(苗S55) 早稲田大学

田辺新一(苗S57) 早稲田大学

田名網雅人(事業委員会/苗S55)

特集 コロナと教育



画面越しでの講義、画面越しでの設計エスキス、画面越しでのゼミ活動。新型コロナウイルスの感染拡大により、春の卒業式・入学式の開催が取りやめとなってからはや半年、学びの環境はオンライン主軸へと変化することを強いられました。外出自粛や三密回避が叫ばれてきた中、早稲田建築の授業や研究のあり方はどのように変化しているのでしょうか。リモートでの講義やゼミを通して見えてきた問題点や新たな知見に関して、各分野の先生にお答えいただきました。

友光俊介（広報委員会）

■建築計画系

古谷誠章（苗S53・院S55・博61）

「大学は人々が出会うところ」

早稲田大学ではコロナ禍を見越していたかのようになり、この4月から新しいeラーニング・プラットフォーム「Waseda Moodle」の運用開始を予定していた。驚くべき慧眼だ。慣れないマニュアルだけでにわかにはリモート授業に対応された先生たちは大変だっただろうが、おかげで教育のオンライン化は一気に加速し、その可能性は大きく広がったといえる。そのメリットはこれまでの「Course N@VI」になかったオンライン配信の「Collaborate」が付いたことで、シラバスの告知からリアルタイム授業、オンデマンド授業、記録動画の視聴からレビューシートや大小テストの提出、成績管理までが一元化できる。

私が最も腐心したのは、ハード面ではオンライン授業のクオリティを担保するための配信環境の整備と、ソフト面では非対面授業での授業の双方向性の確保である。特に私は建築学科新入生のしよっぱなな授業である「建築意匠と歴史」を受け持つので、

もともと毎年如何に学生が「早稲田に入ってよかつたな」と思えるような授業とするかに心を砕いていたが、今年はさらに直接会えぬ新入生たちにそれを伝えるために様々な工夫をしている。

90分の講義を3つのパートに分けて、導入の30分に前回の感想シートに書き込まれた質問などに答えるコーナーを、これはモニターの前に立って顔を見せる「ニュースキャスター方式」で、本題の45分をPPTの「画面共有講義」、最後の15分を学生からの質問に答える「双方向対話」というようなおおよその組み立てで行った。

毎回数多く寄せられた感想シートからは、総じてそれなりの手応えをもって視聴してくれた様子がかがえたが、やっぱりキャンパスに来て直に学びたいというという多くの希望が寄せられている。大学が授業を受けるところだけでなく、友人に会い、先輩に出会い、教員に出会う場所だということを感じさせられる。

吉村靖孝（苗H07・院H09・博H14）

「時計の針を早回しする機会」

近所の定食屋がダイナミック・プライシングを導

入した。言うまでもなく新型コロナ感染症対策である。もともと1000円だった定食が、もともと混み合う昼時の1200円から閑散とする時間帯の900円まで変化することで、行列がなくなるだけでなく、14時過ぎなど普段ならガラガラの時間帯に客を誘導した。変動する値段がすんなり受け入れられたことに感動すると同時に、時計の針が10年ほど早まったと感じた。コロナ禍は、変化を望む人々にとってはまたとないチャンスなのだ。吉村研究室でのエスキス等も完全にオンライン化し、画面に常に上書きしながら進行するので速度や精度はむしろ向上した。実空間でデジタルプレゼンツールを使うことは一般的なケースで、むしろ書き込みの機会が減っていたことに気付かされた。学部教育においても、3年生の課題に動画の提出を取り入れたり、非常勤講師として通う日本女子大では調査のための外出ができないことを逆手に取って自室の改装を課題にしたりと、利用可能なメディアの変化に応じ課題内容や評価基準も柔軟に変化させた。進んでしまった針を戻すことはできない前提で、こちらも最大限その利を得るつもりである。

最後に、さらにもう10年時計を早めるつもりで予

言めいたことを一言。上書きや複製の容易さといっ

たデジタルツール特有の性質がこのまま肉体化していくと、悪しき作品主義のようなものは自然に解体されるのではないかと感じる。良き作品主義を絶やさぬようにだけ気をつけていければ、歓迎すべきか。注意して見守りたい。

藤井由理（苗H09・院H11・博H26）

「eラーニング暗中模索」

全てオンライン授業となり、先生やTAと授業進行について打合せを重ねたことが既に昔のように感じ、アナログの私が少しデジタル化したのは研究室の学生のお陰です。古谷・藤井研究室では、早い時期にチームコミュニケーションソフトであるslackを導入することで、研究室全体の連絡や、各PJの動向をみんなが掲示板形式でシェアすることができるようになりました。学生の発表を含む研究室Meetingではプレゼン向きのe-LMSのMoodleを、懇親会では顔が見えるZoomといたように、適性に合わせたソフトの使い分けをしています。

オンライン授業になって、人間は身体的に空間を共有することで、無意識に多くの情報を得ていたことに改めて気づかされます。デジタル空間では情

報量が減りますが、1対1の場合は人間が持つアナログ的な変化を意識的に重ねることでも近く感じ、コミュニケーションの質を上げることが可能と思うようになりまし。多人数が相手の場合、一方方向の授業ではプレゼン画面がよく見えてむしろ分かり易いという反応もあります。インタラクティブにする場合には難しさがあり、方法を模索する必要を感じています。

小林恵吾 (苗H14)

「向き合うオンライン、向き合わないためのリアル」

リモートでの授業がはじまって、すでに3カ月が経とうとしている。はじめの頃の四苦八苦していた状態や、オンライン上で集うことの目新しさも、最近になってようやく落ち着きははじめ、このWith Coronaの状況について、冷静に向き合えるようになってきたと感じている。

今回、こうした状況下において強く感じたことは、オンラインでの他者との出会い方が、常にダイレクトであるということ。皆カメラに向かって、面と向かって会話をする。これまで、教室で講義を行ったり、研究室にてゼミを行っていた際には、必ず前列に座る学生もいれば、僕の視線から逃れられる端の方に座る学生もいた。各自が、自分にとってちょうど良い居場所を確保できていたのだが、これがZoom上となると、そうはいかない。

はじめの頃オンにしていたカメラが、最近では消されている学生が目立つ。それはもしかすると常に面と向かうことへの疲れや、抵抗の表れなのかもしれない。建築空間は、人と人が出会う場所であるが、この状況下におかれることで、実空間が人と人の間の適度な距離や、直接向き合わなくて良い余白を担保していることを、改めて意識させてくれている。

■都市計画系

後藤春彦 (苗S55・院S57・博S62)

「オンデマンドとオンラインを活用した反転授業の試み」

3年生の講義『景観設計』は同時中継のオンラインではなく、聴講日時を選択できるオンデマンドとした。講義内容を咀嚼する時間が必要と考え(短時間に連続して受講しないよう)、5パートに聴講可能な期間を区分した。また、リモート講義では「臨場感」が得にくいとの助言をいただき、昨年の講義録音を編集し音源として使用した。教室内に響く笑い声などのノイズが臨場感の演出には効果的であった。そして、講義が一方通行にならないように、2週間に一度、講義レビューや優秀課題作品を共有する反転授業をオンラインで行った。

オンデマンド講義は時間や場所の制約がなく、政経、社学、人科など他学部の学生もキャンパス移動の時間ロスがないため多数(90%以上)受講してくれた。その結果、提出任意の講義レビューの投稿が科目登録者の77%(昨年の対面講義では56%)を超え、積極的な参加が確認できた。受講生によれば、オンデマンド講義は何度も再視聴できる。わからない用語が出てきたらビデオを止め、ネット検索して理解を深められるなど、概ね好評であった。

■建築史系

小岩正樹 (苗H13・院H15・博H18)

「教え方を学ぶ日々」

研究室では、もともと自宅で研究を進めるタイプの人も多かったため、コロナ禍にて全く機能停止状態に陥るというではなかったが、やはり一堂に集まらない点や、フィールドワークが制限される点、資

料のある研究室や大学図書館あるいは国内外の資料館へのアクセスが悪い点は、影響がある。いつも以上に共有利用の図書を購入し、それぞれの自宅へ郵送することもあるが、学生間で資料を送り合うなど互助的傾向も見られる。

授業も困難があり、製図演習科目は言わずもがな、座学の講義であっても工夫は求められる。私は、皆が集まっているという感覚を持ってもらえるように定時のリアルタイム配信の講義を主としているが、その録画を後日に視聴することも認めるオンデマンド式の要素を織り交ぜて対応している。一人でオンライン授業ばかりを受講することになる学生たちには相当な疲れが見られるが、教室のスクリーンより明瞭に見えやすいという肯定的な意見も聞く。また双方向型のやり取りを使えば、教場よりも受講生と教員との距離感が近くなるようにも思われる。

早稲田建築は、創設時には西欧中世のアトリエ工房のような技の伝授をモデルとしたと聞く。空間を共有することで技の修得や熟成がはかられた訳だが、コロナ禍でも豊かな教育、あるいは豊かさを育む教育の可能性はあると考えている。

■建築構造系

山田眞 (苗S50・院S52・博S58)

「コロナ禍の取組み」

コロナ禍の中で、オンライン授業、会議等に取り組みざるを得なくなり、殆どが手探りの状態で始まり、春学期の期末を迎えた。慣れない操作や使い勝手の違いは相当のストレスとなった。研究室のゼミ活動も同様。従来の講義形式のものはオンライン化しやすいものの資料等の事前準備には思わぬ時間を要した。特別な工夫はない。配信ソフトの操作がもつとできてほしいとは大いに感じた。ゼミ(実験を含めて)では、tangibleな感覚が欲しいが、その機能

は難しいようだ。

利用できるリソースの違いが更なる格差に繋がらないようにと思うものの難しい取組である。最近日本語訳の出たP・テミン著「なぜ中間層は没落したのか」は、アメリカ社会の分断を解き明かし、教育の役割を期待するが、コストの大きな壁を指摘している。日本の状況も大きくは変わらない。公立校の対応のように。加えて毎年のように自然災害が続いている。人口減少によって国土の保全や社会基盤の維持が大きいのしかかっており、小さな改革の積み重ねで新しい伝統を作っていくしかなさそう。

歴史を築いてきた内藤多仲の塔たちは、各都市の中で、メッセージを伝える象徴として機能し続けている。

前田寿朗 (苗S54・院S56・博S59)

「遠隔授業事始め」

春学期は性格の異なる6科目の授業すべてをオンデマンドで実施した。パワーポイントの使いきれない高機能に驚き、新LMS導入の幸運に戸惑い、ネットワークの不安定さには無力だった。今回の資料と記録を資産とすれば、次回は懇切丁寧な授業のフォローが可能になるかもしれないが、大学と専門学校の違いがなくなるような気がする。説明困難大学のモラトリアム性の価値を、維持し難くなりそうに思う。

卒論と大学院のゼミはすべてオンラインで実施した。文字通りの学生の顔の見えない不毛さと、ビデオ共有を求める不睦さの間で迷った。事前配布資料を念頭に置いた、単一の資料に基づく目的の明確な打ち合わせにはよいが、いろいろな形式の資料を参照しながら、曖昧な検討を積み重ねる楽しみは失われる。とは言っても、混んだ電車で感染覚悟で乗ることもためらわれ、学生が必ずしも対面を望んでいるわけでもなさそうである。コロナの黒船による遠

隔授業の実効化も日本的だが、リモートな「間」の緊張感を和らげる、日本的な緩いハイテクシステムが実現されないものかと思う。

早部安弘 (苗S 63・院H 02)

「Zoom時代」

Zoomという言葉がこれほどまでに世の中に浸透するとは、少なくとも3月までは思っていなかった。「Zoom ミーティング」「Zoom 授業」「Zoom 飲み」「Zoom CM」「演劇でも「Zoom 芝居」というものが出てきた。ディスプレイにコマ割りされた参加者の姿を見ることがニュース番組や日常の風景でも自然になっている。数年前までのテレビ会議と言えば、大きなディスプレイに一部屋の様子が映し出され、1台の集音マイクがテーブルの中央に置かれていたというスタイルであったが、それはもう過去のものになった。誰もがノートPCを持ち歩き、気軽にWeb会議を行っている。自分のノートPCにカメラとマイクが付属していることを思い出し、新しくツールを買わなくても既にWeb会議に参加できる条件を持っていたことを知った。また、ノートPCを持っていなくても、スマホやタブレットがあれば、簡単に参加できるようにまで世の中が進んでいたことに気が付いた。コロナ禍はつらい現実であるが、一方でオンラインによる生活様式を大きく変化させた。この流れを一過性のものにしてはいけない。

コロナの猛威が去った後に、新たな授業スタイル、新たな研究スタイルができてるように進歩し続けていきたいと考えている日々である。

■建築生産系

奥石直幸 (苗S 63・院H 02・博H 07)

「今できることを穏やかに」

春学期の担当は、建築材料I・同IIIの2科目とオムニバス3コマの講義科目、それから2コマ続きの建築工学実験A(材料実験)であった。

講義では、例年の内容を淡々と伝えるだけのこと、わりと一方的に話すスタイルのため、学生からの反応がないオンデマンドでも違和感はなかった。ただ14回分の講義を収録してみたら9回で終わってしまった。どうも普段は復習や雑談に相当時間を費やしているようだ。今回は、説明に困ったときの板書や身振り・手振りができない代わりに、だいたひ図を書き起こしたため、教材はかなり充実した。

問題は実験科目で、技術職員の協力により実験動画を作成したが、木材・コンクリート・鉄鋼の重量感や手触り、溶接実習の迫力などは伝わっていないだろう。

思いのほか熱心に取り組んでいたが、中にはナーバス気味の学生もいた。不自由な時だからこそ、7割もできれば上等だとゆったり構えてくれたら良いのだが。皮肉な話で、この経済停滞によって温室効果ガスが減少しているという。見方を変えれば、今回の苦境も何かに向けての好機となるのでは。

山田宮土理 (苗H 20・院H 22・博H 26)

「半期のオンライン授業を終えて」

本年4月に着任し、間もなく在宅勤務やオンライン授業が始まった。オンライン授業はLMS等の様々な機能を駆使すれば概ね対面式の授業と遜色ない内容を実現できると感じたが、以下のような問題点もあった。

一つ目は、実験科目のオンライン化の難しさである。春学期は材料実験を担当したが、実物の材料に触れて手足を動かして得られる学びを再現することが困難であった。二つ目は、講義を実施する側として、無反応な画面に向かって話し続けることのやりにくさである。対面授業では学生の反応で説明の仕

方や進度を微調整でき、何より説明の「やりがい」を実感できていたことに気付かされた。三つ目は、学生からの質疑やレポート、テストなどの提出物に誤字が散見されたことである。すべての提出物をオンラインで受け付けたため、PC入力による変換ミスが目立った。

その一方で、時間に縛られないライフスタイルも実感できた。授業をオンデマンド化しておけば、授業日時に縛られることなく研究出張等に出かけられ、また保育園に通う子どもを育てる身としても、在宅勤務による出勤時間削減や、会議ごとの移動時間の削減により、大変助かった面もあった。コロナ禍の収束によりオンラインと対面の両者の良い面を状況に応じて組み合わせられる日が待ち遠しい。

石田航星 (苗H 21・院H 23・博H 26)

「意外とできるオンライン講義と課題」

授業の全面的なオンライン化が開始された4月頃は、学生や教員のコンピュータ・リテラシーのばらつきが大きな問題となった。Web会議に参加したことがない学生や非常勤講師に対してWeb会議形式で利用方法を教えることは難しく、メールや電話などそれぞれが利用できる通信方式を通じて環境を整えることに多大な労力がかかった。ただ、オンライン授業が本格化すると、毎日のコンピュータ利用が必須になったため多くの学生が習熟していき、コンピュータ・リテラシーの大幅な向上が見られた。また、デッサンや製図の演習、施工法の講義、施工シミュレーションなどの演習、そして研究室活動をオンラインで4カ月間実施してみたところ、大学講義の多くはオンライン化でも実施できると感じる。自宅で用意できない機器が必要な実験系科目以外は概ねオンライン講義が成立すると考えられる。

一方で、オンライン環境では新しい人間関係を築くことが難しく、研究室に入ってきた4年生や新1

年生間での人間関係の形成においては、「登校させる」以外の解決方法が見つからないと感じる。オンライン環境下で学生同士学び合う環境をどのように築くことができるかが今後の大きな課題となると感じている。

■建築環境系

高口洋人 (苗H 07・院H 09・博H 13)

「オンラインの限界と効用」

5年ほどまえから、長期出張時にはオンラインでゼミをしている。その経験もあってコロナでしたことを言えばリングライトを買ったくらいか。資料集めや方向性がはっきりしていることはオンラインでも問題はないのだが、考えなければならぬこと、議論が必要なことは、そう簡単には進まない。なので、緊急事態宣言が明けてからは、対面で毎週ゼミをしている。

企業との共同研究についても、相手先の同意があれば対面で行っており、実測も行っている。今年からJICAの事業でインドネシア政府と研究が始まったが、こちらは渡航ができず、オンラインでの打ち合わせを続けている。卒論や修論が間に合うか、状況を見ながら内容を相談している。

授業も特に問題はなかったが、大学院の授業は、今年は留学生の受講が多く、全面的に英語化(一部バイリンガル化)した。オンラインではPCの辞書が使えるので楽だった。学生の評価については、授業評価の結果が出ていないのでなんとも言えないが、いずれにしても、完全に元に戻ることはなく、これからはハイブリッドな授業が普通になると思う。

二〇二〇年度第一回 職域幹事会報告

9月11日夜、2020年度第一回職域幹事会が行われました。コロナ禍の中、今年度の稲門建築会各会議がオンラインで開催されていて、職域幹事会も今回は初めてのオンラインにより開催しました。今回はオンライン開催ということもあり、例年よりも多く44社の職域幹事の皆様にご参加いただきました。今回は出席いただいた職域幹事全員の方に顔出しして簡単に自己紹介いただき、全員参加感がでてよかったかと思えます。

各委員会の活動報告の後、今年度オンラインで行う「OB OGによる仕事紹介」のご説明をさせていただきました。この「仕事紹介」を何とかいい形で開催できるように検討していますので、皆様ご協力よろしくお願いたします。

オンラインでの開催の中、懇親会も通常通り(?)行いました。所謂「Zoom飲み」という形ですが、20数名という人数だったため皆さんから近況報告や今年度の会についてのご意見等いただくことができ、こちらも有意義な会となりました。最後には恒例の後藤研4年田村さん・神作さんのエールのもと、「都の西北」合唱をZoom越しで行い、一層の連帯感が生まれたと感じました。コロナ禍に負けない早稲田のパワーを感じることできた夜でした。

中田康将(会員委員長/苗H01)

二〇二〇年度職域幹事一覽

- 永澤明彦(苗H04) ㈱アール・アイ・エー
 梶山徹(苗H07) ㈱淺沼組
 池田剛生(苗S61) 旭化成ホームズ ㈱
 福田英義(苗H03) ㈱梓設計
 明珍邦彦(苗S50) ㈱アルモ設計
 山崎和彦(苗S60) ㈱安藤・間
 福地拓磨(苗H09) ㈱石本建築事務所
 園田陽一(苗S58) 伊藤忠商事 ㈱
 宇塚幸生(苗S50) ㈱入江三宅設計事務所
 海谷真理(苗H16) ㈱インテックスコンサルテング
 小室正章(苗H04) ㈱NTTフレッヂ
 藤木洋徳(苗H16) 大阪ガス ㈱
 堀池隆弥(苗H05) ㈱大林組
 床圭司(苗H07) ㈱奥村組
 佐々優子(苗H03) ㈱オリエンタル
 中村聡一郎(協H25) ㈱オリエンタルランド
 石川麻莉(苗H27) ㈱オリバー
 細田正紀(苗H14) 鹿島建設 ㈱
 鈴木裕(苗S48) ㈱観光企画設計社
 李祥準(博H21) 関東学院大学
 境田康良(苗H12) 北野建設 ㈱
 高木朋也(苗S62) ㈱熊谷組
 川井隆夫(苗H03) ㈱久米設計
 岡田直久(苗H15) 京成電鉄 ㈱
 富樫英介(苗H16) 工学院大学
 安藤靖人(苗H06) ㈱構造計画研究所
 関谷英一(苗H10) ㈱鴻池組
 原英嗣(苗H09) 国土館大学
 才木潤(苗H05) 国土交通省
 山崎直宏(苗S53) 古久根建設 ㈱
 木下修文(苗H12) ㈱コスモエニシア
 岡本光正(苗H05) 五洋建設 ㈱
 木瀬大輔(苗H23) ザイマックスグループ
 今春大介(院H10) ㈱坂倉建築研究所
 齊藤直弥(苗H15) サッポロビルグループ
 牧野創太(苗H26) 佐藤工業 ㈱
 龍治男(苗H04) ㈱佐藤総合計画
 長澤広学(苗H17) 三機工業 ㈱
 齋藤亜紀子(苗H23) ジーク ㈱
- 阿部真之介(苗H12) ㈱JR東日本建築設計事務所
 中川佳(苗H12) JFEスチール ㈱
 村上公哉(苗S60) 芝浦工業大学
 重松英幸(苗H16) 清水建設 ㈱
 田村圭介(苗H05) 昭和女子大学
 金子寛明(苗S58) 新築冷熱工業 ㈱
 赤坂英司(苗H01) 住友不動産 ㈱
 田邊将(苗H18) 住友林業 ㈱
 島田達哉(苗S59) 西武建設 ㈱
 堂城直人(苗H14) 積水ハウス ㈱
 井奥貴(苗S59) ㈱銭高組
 渡辺勇太(苗H19) 第一生命保険 ㈱
 羽川斉之(芽H11) 大成建設 ㈱
 羽毛田真也(苗H20) 大成ハウス工業 ㈱
 守屋寛之(苗H08) 高砂熱学工業 ㈱
 北川誉紀(芽H18) 高松建設 ㈱
 柴山剛(苗H07) ㈱竹中工務店
 小池奈央(苗H16) ㈱丹青社
 高橋英治(苗S60) 千代田化工建設 ㈱
 椎名明良(苗S54) 鉄建建設 ㈱
 内藤純(苗S60) ㈱電通
 中野淳太(苗H09) 東海大学
 入川智行(苗H18) 東海旅客鉄道 ㈱
 由井聡(苗H05) 東急 ㈱
 長谷川剛(苗H08) 東急建設 ㈱
 上治吾郎(苗H08) ㈱東急設計コンサルテング
 江原清仁(苗H11) 東急不動産 ㈱
 青田篤(苗H10) 東京ガス ㈱
 奥山周吾(苗H15) 東京建物 ㈱
 市丸隼人(苗H17) 東京電力グループ
 石塚正浩(苗H24) 東京都
 岩下剛(苗S62) 東京都市大
 山田孝司(苗S57) ㈱都市デザイン
 和田浩(苗S61) 戸田建設 ㈱
 細田和輝(苗H28) 飛鳥建設 ㈱
 橋本史生(苗H24) 成田国際空港 ㈱
 田原潤一(苗H16) 西日本旅客鉄道 ㈱
 竹内章博(苗H08) 西松建設 ㈱
 佐藤哲也(苗H27) 日揮 ㈱
- 金光宏泰(苗H21) ㈱日建設計
 石田直史(苗S62) ㈱日建ハウジングシステム
 本間進太郎(院H06) 日鉄エンジニアリング ㈱
 樋上岳(苗H03) ㈱NIPPO
 増田開(苗H26) 日本製鉄 ㈱
 切敷香澄(苗H03) 日本郵政 ㈱
 福島朝平(苗S58) 日本環境技研 ㈱
 丸谷翔平(苗H26) ㈱日本設計
 有村亮(苗H14) 日本土地建物 ㈱
 齊藤忍(苗S60) ㈱乃村工藝社
 佐藤亮太(苗H23) 野村不動産 ㈱
 末広英之(苗H09) ㈱博報堂
 川本哲也(苗H07) パシフィックコンサルテング
 長崎知彦(苗H21) ㈱長谷工コーポレーション
 北原魁人(苗H24) 東日本旅客鉄道 ㈱
 大和祐也(苗H29) ㈱藤木工務店
 金田剛(苗H01) ㈱フジタ
 鈴木章夫(苗S58) 前田建設工業 ㈱
 山崎敏幸(苗H04) ㈱松田平田設計
 長谷川恵美(苗H12) ミサワホーム ㈱
 松崎真豊(苗S63) 三井住友建設 ㈱
 朝賀稔(苗H03) 三井物産 ㈱
 西原宗一郎(苗H25) 三井不動産 ㈱
 山下将司(苗H12) 三井ホーム ㈱
 吉川朗(苗S60) 三菱地所 ㈱
 石橋洋二(苗H09) 三菱地所設計
 小村匠(苗H25) 三菱地所レジデンス ㈱
 小川悠介(苗H21) 三菱商事 ㈱
 横山聡(苗H07) ㈱三菱総合研究所
 玉置健治(苗H09) 森トラス ㈱
 貝島雄太(苗H09) 森ビル ㈱
 熊谷泰彦(苗H05) ㈱安井建築設計事務所
 三浦正徳(苗H28) ㈱山下設計
 渡辺啓太(苗H18) ㈱山下P.M.C
 西田誠司(苗H02) 横濱市
 松本翔(苗H24) ㈱類設計室
 藤井由理(苗H09) 早稲田大学

2019年度末会費納入率一覽

在籍会員数別納入率		上10社	
会社名	会員数*	納入率	
早稲田大学	73	42.5%	
大成建設 ㈱	286	35.0%	
㈱三菱地所設計	63	34.9%	
㈱日建設計	140	31.4%	
㈱NTTファンティアーズ	61	31.1%	
戸田建設 ㈱	84	28.6%	
鹿島建設 ㈱	236	26.7%	
清水建設 ㈱	263	25.5%	
㈱日本設計	84	21.4%	
㈱大林組	154	20.8%	
15~49名		上15社	
㈱山下設計	43	51.2%	
㈱松田平田設計	20	50.0%	
㈱梓設計	34	44.1%	
㈱JR東日本建築設計事務所	17	41.2%	
東京建物 ㈱	21	38.1%	
㈱久米設計	40	37.5%	
三菱地所 ㈱	30	36.7%	
前田建設工業 ㈱	31	32.3%	
横浜市	25	28.0%	
東日本旅客鉄道 ㈱	37	27.0%	
東急建設 ㈱	19	26.3%	
旭化成ホームズ ㈱	35	25.7%	
三井不動産 ㈱	40	25.0%	
国土交通省	25	24.0%	
㈱石本建築事務所	17	23.5%	
5~14名		上15社	
東海旅客鉄道 ㈱	9	77.8%	
日本土地建物 ㈱	9	66.7%	
工学院大学	6	66.7%	
三菱地所レジデンス ㈱	6	66.7%	
日鉄エンジニアリング ㈱	8	62.5%	
西松建設 ㈱	7	57.1%	
㈱佐藤総合計画	13	53.8%	
㈱山下P.M.C	8	50.0%	
㈱類設計室	8	50.0%	
㈱安井建築設計事務所	11	45.5%	
佐藤工業 ㈱	10	40.0%	
日本郵政 ㈱	10	40.0%	
飛鳥建設 ㈱	5	40.0%	
㈱安藤・間	13	38.5%	
五洋建設 ㈱	9	33.3%	

*通信可能な会員数

二〇二〇年度稲門建築会役員一覧

*は新任役員

会長	大内政男(苗S 47)元(株)三菱地所設計
副会長	長谷見雄二(苗S 48)早稲田大学 亀井忠夫(苗S 52)(株)日建設計 車戸城二(苗S 54)(株)竹中工務店
総務	委員長 川口晋(苗S 63)(株)NTTフレッシャーズ 齋藤俊一郎(苗H 02)(株)竹中工務店 野村祐造(苗H 03)鹿島建設(株) 武田勤(苗S 57)(株)松田平田設計 野口久(苗H 03)国土交通省 栗野寿朗(芽H 17)山芳建設(株) 西尾薫子(苗H 05)(株)大林組*
理事	委員長 中田康将(苗H 01)清水建設(株) 鬼澤仁志(苗H 03)(株)三菱地所設計 飯岡方春(苗S 63)(株)梓設計 小谷竜士(芽H 14)小谷建築設計(株) 日置拓人(苗H 05)日置拓人+南の島工房(一級建築士事務所) 渡邊大志(苗H 15)早稲田大学 高橋裕之(芽H 16)studio cairn 斉藤貴城(苗H 17)積水ハウス(株) 後藤邦彦(苗H 12)東京電力エナジーパートナー(株) 堀圭吾(苗S 63)大成建設(株) 依田晋一郎(苗H 02)(株)日本設計 伊藤玲央(苗H 15)(株)山下設計* 柳清隆(苗H 25)東京建物(株)* 石渡高裕(修士2年)田辺研* 伊藤泥彩(修士2年)田辺研*
事業	委員長 浅見邦一(苗S 62)鹿島建設(株) 三川修次(苗S 62)(株)竹中工務店 三宅奈美(苗H 01)(株)佐藤総合計画 海老原靖子(苗H 08)(株)久米設計 井深誠(苗S 63)大成建設(株) 神田篤志(苗H 15)(株)日建設計 堀池隆弥(苗H 05)(株)大林組 牧住敏幸(苗H 04)清水建設(株) 篠崎亮平(苗H 12)(株)山下設計 加藤詞史(苗H 01)(株)加藤建築設計事務所* 中尾直暉(修士1年)吉村研
学生理事	委員長 兄玉謙一郎(苗H 02)(株)久米設計 小林惠吾(苗H 14)早稲田大学 飯島敦義(苗H 11)(株)日建設計 伊藤賢郎(苗H 17)前田建設工業(株) 川村浩(苗S 63)(株)三菱地所設計
副委員長	委員長 中川優一(苗H 18)(株)日本設計 廣岡勇輝(苗H 19)前田建設工業(株)* 風間健(苗H 24)鹿島建設(株)* 戸石和宏(芽H 28)城戸崎建築研究室* 永島啓陽(修士2年)田辺研* 坂井高久(修士2年)早部研*
事務局長	鴨田隆(苗S 48)稲門建築会
監事	金子寛明(苗S 58)新菱冷熱工業(株) 羽田正沖(苗H 16)戸田建設(株)
幹事	建築学科 金ジョンミン(博H 31)早稲田大学助教 万長城(院H 27)早稲田大学助手* 稲垣淳哉(苗H 16)早稲田大学芸術学校 合同クラス会 実行委員長 田中智之(苗H 06)熊本大学* 一〇周年記念特別委員会 実行委員長 田名網雅人(苗S 55)鹿島建設(株)* 評議員会 会長 古谷誠章(苗S 53)早稲田大学* 田邊新一(苗S 57)早稲田大学* 東秀紀(苗S 48)首都大学東京 佐土原聡(苗S 55)横浜国立大学 大野勝(苗S 48)(株)佐藤総合計画 山地徹(苗S 54)清水建設(株) 重村力(苗S 44)(株)いるか設計集団 清水和彦(苗S 53)三機工業(株) 田名網雅人(苗S 55)鹿島建設(株) 賀持剛一(苗S 58)(株)大林組 加藤永(苗S 58)一般社団法人民間都市開発推進機構 萩原剛(苗S 58)早稲田大学芸術学校 松尾宙(芽H 10)二級建築士事務所アンブレ・アーキテツク* 松田英文(苗S 51)りゅうでん(株) 生田昭夫(友S 45)堂計画室*
早苗会	古谷誠章(苗S 53)早稲田大学* 田邊新一(苗S 57)早稲田大学* 東秀紀(苗S 48)首都大学東京 佐土原聡(苗S 55)横浜国立大学 大野勝(苗S 48)(株)佐藤総合計画 山地徹(苗S 54)清水建設(株) 重村力(苗S 44)(株)いるか設計集団 清水和彦(苗S 53)三機工業(株) 田名網雅人(苗S 55)鹿島建設(株) 賀持剛一(苗S 58)(株)大林組 加藤永(苗S 58)一般社団法人民間都市開発推進機構 萩原剛(苗S 58)早稲田大学芸術学校 松尾宙(芽H 10)二級建築士事務所アンブレ・アーキテツク* 松田英文(苗S 51)りゅうでん(株) 生田昭夫(友S 45)堂計画室*
支部	北海道 染谷哲行(苗S 48)アルコム計画工房 東北 菊池健二(苗H 04)東北電力(株) 信越 篠島弘明(苗S 54)富山県建築設計監理協同組合* 北陸 新井精一(苗S 50)千広建設(株)* 静岡 大瀧敏久(苗H 19)(株)大瀧建築事務所 中部 松田英文(苗S 51)りゅうでん(株) 近畿 重村力(苗S 44)(株)いるか設計集団 中国 生田昭夫(友S 45)堂計画室* 四国 田口太郎(苗H 11)徳島大学* 九州 金岡伸幸(苗S 37)
支部長	北海道 染谷哲行(苗S 48)アルコム計画工房 東北 菊池健二(苗H 04)東北電力(株) 信越 篠島弘明(苗S 54)富山県建築設計監理協同組合* 北陸 新井精一(苗S 50)千広建設(株)* 静岡 大瀧敏久(苗H 19)(株)大瀧建築事務所 中部 松田英文(苗S 51)りゅうでん(株) 近畿 重村力(苗S 44)(株)いるか設計集団 中国 生田昭夫(友S 45)堂計画室* 四国 田口太郎(苗H 11)徳島大学* 九州 金岡伸幸(苗S 37)

主な会務の報告

二〇二〇年三月

- 〔会議〕5月未までメール開催、6月よりWeb (Zoom) で開催
- 19年度
 - 臨時理事会：3/6、3/13
 - 企画運営会議：3/6、3/13
 - 第23回稲門建築会特別功労賞選考委員会：3/6、3/13
 - 第4回理事会：5/1、5/7
 - 第2回評議員会：5/11、5/15
 - 20年度
 - 春の大会・通常総会：5/22、5/28
 - 第1回企画運営会議：6/2
 - 第1回理事会・第1回評議員会：7/17
 - 支部長会議：7/31
 - 第1回職域幹事会：9/11
- 〔活動〕
 - 稲門建築会賞授与(会長出席)：3/26
 - メールマガジンの発行：4、5、6、7、9月号
 - 「イヤブック『WA』2020の発行：4/15
 - 早稲田建築ニュース109号の発行：4/15
 - 新入生ガイダンス(会長Web参加)：5/14
 - 共創ワークショップ演習 講師派遣：5/11、5/18

事務局便り

4月から新入生を迎えるはずでしたが登校はできず稲門建築会の資料や『WA』を未だ渡せていない状況です。こんな中でもメールマガジンとニュースは新入生に届けられるので、建築を目指す人達に新鮮な話題を各委員会、各支部と協力して提供いたします。多くの皆様の活動への参加と会費の納入をお願い致します。

鴨田隆(事務局長/苗S 48)

訃報

左記の方がお亡くなりになった旨、事務局にお知らせいただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

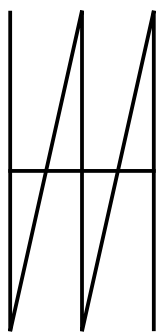
2020年3月1日〜8月31日受付分

白井成一(苗S 23)	2020.3.12
梅野節也(苗S 26)	2020.3.31
佐藤春人(苗S 26)	2020.8.7
齋藤清助(苗S 27)	2020.3.9
小城宏之(苗S 28)	2019.12.27
石井純(苗S 28)	2019.12.2
小畑暁(苗S 29)	2017年
蟹江淳(苗S 30)	2019.10.8
山下芳昭(苗S 32)	2020.4.24
大石寧(苗S 33)	2020.1.27
沖口好巳(苗S 33)	2019.12.5
中川河(苗S 33)	2020.2.18
橋本高(苗S 33)	2020.02
草野智恵子(苗S 33)	2019.12
佐藤幸俊(苗S 33)	2019.1
小松崎良行(苗S 34)	2019.12.6
川本政喜(苗S 35)	2020.4.10
佐藤靖雄(苗S 36)	2019.12.13
針ヶ谷純吉(苗S 36)	2018.11
本多孝武(苗S 37)	逝去日不明
竹中厚信(苗S 37)	2016.12.28
伊久美嘉男(苗S 38)	2017年
東條英敏(苗S 38)	逝去日不明
福嶋健太郎(苗S 38)	2019.8.30
佐藤友治(苗S 45)	2020.4.15
黒川益次(苗S 46)	2016.9
南芳則(苗S 55)	2020.5.8
木村正人(苗S 62)	2020.7.8
水野幹夫(友S 12)	逝去日不明
今西勝太郎(友S 16)	2019年
林茂雄(友S 17)	2015年
尾瀧岩夫(友S 21)	逝去日不明
篠原薫(友S 26)	2020.5.6
戸塚隆司(友S 26)	逝去日不明
丸山文彦(友S 27)	2018.12.10
佐藤幸吉(友S 30)	2019
菅谷匡宏(友S 30)	2020.2
横山哲雄(友S 30)	逝去日不明
井上喜八郎(友S 32)	2020.4.17
木下二郎(友S 39)	2020.2.4
白井純一(友S 43)	2020.1.7
浅野武利(友S 18)	2019.1
小原重喜(友S 23)	2017.1.18
斉藤輝一(友S 23)	2018.11.12
青木弘好(友S 24)	2020.2.3
畠中三郎(友S 19)	2003.9
岡田一也(友S 24)	2019夏
渡邊齊(友S 24)	2020.3.10
杉田豊(芽S 63)	2019.11

編集後記

オンラインビキィヤーとなる2020年でしたが、コロナ禍のためオンラインビキィが開催できないどころか、在宅勤務等様々な自粛をしなければならぬ状況となりました。特集は、この状況下で早稲田建築のご教育現場で奮闘し続ける各先生方にご協力をお願いし、頁を拡張してお話を掲載させていただきました。各先生方の話の切口の違いに、立体的に現在の大学教育の状況が浮かび上がると同時に、これから変わるだろう時代に対して順応するだけでなく、模索を続けることで新たな契機となる可能性もあることがうかがわれます。皆様の手掛かりとなれば幸いです。

兄玉謙一郎(広報委員長/苗H 02)



News of WASEDA Architecture
No.110
2020年10月15日発行

発行者 稲門建築会会長 大内政男
編集者 稲門建築会広報委員会
(委員長: 兄玉謙一郎)

発行所 稲門建築会
〒169-8555
東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学55号館S棟2階
電話・ファックス
03-3208-0640
HP = <http://www.tounon.arch.waseda.ac.jp/>
Email = wap@tounon.arch.waseda.ac.jp

制作 株式会社建築メディア研究所
フォーマットデザイン 岡崎真理子
©稲門建築会